

松尾総長(右)から褒章の記を受け取る筒井さん(中)と妻の陽子さん(左)=いずれも名古屋市千種区の名古屋大アジア法交流館で



# 亡き娘への思い 褒章受章

名古屋大(名古屋市千種区)アジア法交流館の茶室整備に二千三百五十万円を寄付したとして、春日井市の医療機器メーカー「東海メディカルプロダクツ」の会長で、名大客員教授の筒井宣政さん(モミ)が紺綬褒章を受けた。二十八日、名大で伝達式があった。(大西里奈)

## 名大の茶室整備に寄付 「東海メディカル」会長

筒井さんは、先天性の心臓病を患う次女佳美さんを救うため、一九八一年に起業。前職は樹脂加工会社の社長で医療の知識はなかったが、東京女子医大の協力で研究を重ねた。

八七年に心筋梗塞の応急処置に使う機器「バルーンカテーテル」を開発したが、佳美さんの治療には使えず、佳美さんは九一年に二十三歳で亡くなった。中学生の時から亡くなる直前まで、茶道をたしなんでいたという。

筒井さんは二〇一三年から名大の大学院のビジネス講座で講師を担当。一五年に客員教授になった。茶室整備を計画しながら資金に困っていた大学側が、亡くなった佳美さんが茶道を好んでいたことを知り、協力を打診。筒井

さんは快諾し、茶室整備費の全額を負担した。茶室は一五年十一月に完成し、留学生が使っている。

伝達式には筒井さんと妻陽子さん(モミ)が出席。松尾清一総長が褒章の記を手渡した。筒井さんは「『佳美を救う』という思いが褒章につながった。佳美が好きだった茶道を通し、日本の文化を知ってほしい」と話している。



筒井さんの寄付で作られた茶室